

備えあれば 憂いなし

副鼻腔炎編

日本有数の耳鼻咽喉科専門病院である堀病院の宇高毅先生に、特に冬から春に増悪しやすい副鼻腔炎の治療についてうかがいました。

治療なしでは改善しない
副鼻腔炎への備えを

副鼻腔炎は、主に細菌やアレルギー反応によって鼻の粘膜が腫れ、鼻づまりや鼻水に加えて、頭痛や嗅覚障害が起こる疾患。「つらい症状ですが、かぜでも現れる症状なので、見過ごされがちです。この疾患は原因を調査し、適切な治療をしない限り改善の可能性はないため、早めに治療を行うことが大切です」と、副鼻腔炎への注意を促す宇高先生。

最近の動きとして、黄色い鼻水が特徴の細菌性の副鼻腔炎は、抗生物質の発達で早めに治療すれば比較的改善しやすい傾向

PROFILE

堀病院理事長・院長(広島県)

宇高 毅先生

うだか・つよし 1996年産業医科大学医学部卒業。同年同大学耳鼻咽喉科学教室入局。07年同大学医学部助教。九州労災病院耳鼻咽喉科部長、熊本労災病院耳鼻咽喉科部長を経て、10年堀病院勤務。11年より現職。耳鼻咽喉科専門医、騒音性難聴担当医、補聴器適合医。



診療では、鼻や耳の中をカメラで映し、患者さんに状態を画像で説明する。すると、患者さんも自分の鼻や耳の中の状態を把握しやすくなり、積極的に治療に取り組むように。



向に。一方、花粉症や喘息の増加に伴い、関連する鼻の粘膜にも炎症が連鎖することでアレルギー性の副鼻腔炎が増えていきます。「このタイプは、鼻の中にポリープができるのが特徴です。アレルギーを治すのが困難なことから、投薬しても治りにくい。アレルギー体質の人は、懼りやすいことを知っておきましょう」。

心身の負担軽減のために
無駄のない正確な診療を

「私のモットーは、早く正確な診療。患者さんのつらさを速やかに取り除くことに注力していきます」と言う宇高先生のもとには、県外からも様々な症状をもつ患者さんが訪れます。

「副鼻腔炎は、数カ月投薬しても効果がない場合、治療を長引

かせてもよくならない症例を多々見てきました。当院では、そのような場合、状況に応じて内視鏡手術という選択肢をお話しています。内視鏡手術は体に負担が少なく、術後の回復も早いことで知られます。「この手術治療により、煩わしい症状から解放される点、術後も経過をしっかりと診ることを理解いただき、よい結果を導いています」。

冬から春にかけては、かぜや花粉などのアレルギーが関与し、副鼻腔炎が起こりやすい時期。備えとして、かぜを引いた時に黄色い鼻水が出る、アレルギーをもっている人が鼻水・鼻づまりに頭痛を伴う場合は、早めに耳鼻咽喉科を受診するよう、熱心に語ってくださいました。

最新最速の医療を
迅速に安全に提供します

宇高 毅

技術が進んだ今、内視鏡手術は怖くない

内視鏡を用いて、鼻の穴から悪い部分だけを取り除く内視鏡手術は、出血や痛み、腫れをほぼ起こさず、鼻の通りを格段によくする手術法。大病院や専門病院で受けられるので服薬で改善がない、繰り返す、ポリープが多く見られる場合には、医師に相談

を。堀病院では、アレルギーを伴う場合には、関与する後鼻神経を切断して症状を抑える手術も併せて行い、成果を上げています。「2014年には新病棟を設け、手術ナビゲーションシステムなど最新機器を導入予定で。素早く痛みを改善する診療を追求し続けます」。



(←)かつて副鼻腔炎手術は歯根を切開し、顔の骨を削って行い、負担も時間もかかっていた。内視鏡手術は、概ね時間は30～60分、入院は1週間に短縮。「怖がらなくても大丈夫」と宇高先生。



(↑)更なる診療の充実を図る新病棟は14年秋完成予定。